

⑪ 公開特許公報 (A)

平1-246264

⑤Int.Cl.⁴
C 07 D 215/22
A 01 N 43/42
43/54

識別記号

101

序内整理番号

8413-4C
7215-4H
G-7215-4H※

④公開 平成1年(1989)10月2日

審査請求 未請求 請求項の数 11 (全23頁)

⑤発明の名称 キノリン、キナゾリンおよびシンノリン誘導体

②特 願 平1-19401

②出 願 平1(1989)1月27日

優先権主張 ②1988年1月29日③米国(US)④150103

⑤発明者 マイケル・ジョゼフ・コフラン アメリカ合衆国インディアナ46250、インディアナボリス、クリケット・リッジ5744番

⑤発明者 バリー・アラン・ドレイコーン アメリカ合衆国インディアナ46236、インディアナボリス、トリロビ・ドライブ9731番

⑤出願人 イーライ・リリー・アンド・カンパニー アメリカ合衆国46285インディアナ州 インディアナボリス市、リリー・コーポレイト・センター (番地の表示なし)

⑤代理人 弁理士 青山 葵 外1名

最終頁に続く

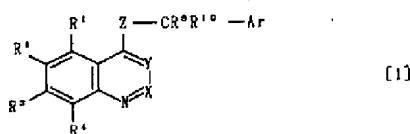
明細書

1. 発明の名称

キノリン、キナゾリンおよびシンノリン誘導体

2. 特許請求の範囲

1. 式:



[式中、R¹～R⁴はそれぞれ個別にH、ハロゲン、I、(C₁～C₄)アルキル、分枝状(C₂～C₄)アルキル、ハロ(C₁～C₄)アルキル、(C₁～C₄)アルコキシ、ハロ(C₁～C₄)アルコキシ、NO₂またはNH₂(ただしR¹～R⁴のうち少なくとも2個はHである);

XおよびYはその一方がN、他方がCR⁵であるか、あるいはXとYの双方がCR⁵(R⁵はH、CH₃またはC₆である);

ZはO、NR⁶、S、SO、SO₂またはCR⁷R⁸(R⁶はH、(C₁～C₄)アルキルまたは(C₁～

C₄)アシル、R⁷およびR⁸はそれぞれ個別にH、(C₁～C₄)アルキル、分枝状(C₂～C₄)アルキルまたは(C₁～C₄)アシルであるか、あるいはR⁷およびR⁸はこの双方を合して形成される3～7個の炭素原子を含む飽和もしくは不飽和炭素環式基を表わすか、あるいはR⁷およびR⁸はその一方とR⁶およびR¹⁰の一方とを合して形成することができる二重結合を表わしてもよい);

R⁶およびR¹⁰はそれぞれ個別にH、(C₁～C₄)アルキル、フェニル、置換フェニル、(C₁～C₄)シクロアルキル、ヒドロキシ、ハロゲン、[またはアセチルを表わすか、あるいはR⁶およびR¹⁰はこの双方を合して形成される3～7個の炭素原子を含む飽和もしくは不飽和炭素環式基];

Arは(C₁～C₄)シクロアルキル、置換された(C₁～C₄)シクロアルキル、(C₁～C₄)シクロアルケニル、ナフチル、ジヒドロナフチル、テトラヒドロナフチル、デカヒドロナフチル、1,3-ベンゾジオキソリル、フルオレニル、ビリジル、2,3-ジヒドロ-1,4-ベンゾジオキシン-2